



沼氏物語 七



541

五曜文庫

夕霧

沙汰

幻

白告部

取柄

竹川

夕霧卷

平とつてきるる次

於中巻の月十五夜に

こまねい巻のヨロヨロを

まてまきかへる

向りん乃ちとらへ

所より<sup>ナニ</sup>の<sup>ナニ</sup>と<sup>ナニ</sup>なり

あけしやと<sup>ナニ</sup>の<sup>ナニ</sup>なり

終るるなり

と歸るるなり 白告巻

わたりしは<sup>ナニ</sup>の<sup>ナニ</sup>なり

しるしをいふにあらざりては  
わづらひたるをいふにあら  
ず城よ小節とまふにあら  
ず治よ小節とまふにあら  
ず治よ小節とまふにあら  
のらひたるにあらざりては  
あら

法車より日徳をかこむる  
じりり

ちよゆるり 相本兄  
みえき 相本兄の  
あら

いふに 女と申す

海衣 法衣の  
わのよと申す

とんぶら 女と申す

うあそとら 女と申す  
ゆくとら 女と申す

あふとら 女と申す  
おとら 女と申す

おとら 女と申す  
おとら 女と申す

おとら 女と申す  
おとら 女と申す

まのまのわらわのたまにきり  
あがり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

まのまのわらわのたまにきり

終る

おのゝりく **女**のあはれ

らへ **女**のあはれ

し **女**のあはれ

終る

**女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

あはれ **女**のあはれ

さうして、  
しるしをいかにかきとるべし。

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ  
しるしをいかにかきとるべし。

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● まつりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

● 舟のきりかへ

らそなたらしく **女** **御** **対**  
らうらうらうらうら **女** **御**  
らうらうらうらうらうら  
らうらうらうらうら

**女** **御** **対**  
らうらうらうらうら

**女** **御** **対**

らうらうらうらうら **女** **御**  
らうらうらうらうら

らうらうらうら

らうらうらうら **女** **御** **対**

らうらうらうらうら

らうらうらうらうら

らうらうらうらうら **女** **御** **対**

らうらうらうらうら

らうらうらうらうら **女** **御** **対**

らうらうらうらうら

らうらうらうらうら

らうらうらうらうら **女** **御** **対**

らうらうらうらうら

らうらうらうらうら

らうらうらうらうら **女** **御** **対**



うらやまのうらやま 女は河を  
さぐりてのうらやま 柏あしを  
けりてまじりては第はうらやま  
かたはうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま  
うらやま

△女のうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま

細のうらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま

△女のうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま  
うらやまのうらやまのうらやま

柏舟のりかひまきくらくらし  
油のそとけり

いふはしほふちかて柏舟す  
江戸のま 女はしら一柏  
まはしとくまに

とくまにのりかひまきくらくらし  
まはしとくまにのりかひまきくらくらし  
まはしとくまにのりかひまきくらくらし  
まはしとくまにのりかひまきくらくらし  
まはしとくまにのりかひまきくらくらし  
まはしとくまにのりかひまきくらくらし  
まはしとくまにのりかひまきくらくらし  
まはしとくまにのりかひまきくらくらし  
まはしとくまにのりかひまきくらくらし  
まはしとくまにのりかひまきくらくらし

院まき 朱巻院と

かきとくまにのりかひまきくらくらし

かきとくまにのりかひまきくらくらし

かきとくまにのりかひまきくらくらし

かきとくまにのりかひまきくらくらし

かきとくまにのりかひまきくらくらし

かきとくまにのりかひまきくらくらし

かきとくまにのりかひまきくらくらし

かきとくまにのりかひまきくらくらし

かきとくまにのりかひまきくらくらし

かきとくまにのりかひまきくらくらし

かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、

かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、

かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、

かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、  
かゝる事にしては、



我の井のほとりす  
さう海らるる井  
かにあつたか  
かの物に  
さうさうさう  
さうさう

ゆきあつた  
さうさう  
さうさう  
さうさう  
さうさう

あつたさうさう

あつたさうさう  
あつたさうさう

あつたさうさう

あつたさうさう  
あつたさうさう  
あつたさうさう

あつたさうさう  
あつたさうさう

あつたさうさう

おぼろにほくしきま

ちかま 夕暮れに母し

のぼるにありはるる

流るる一簇とま

かゝるま 女にまのま

まゝとくしき

くまにまのま

ま

まゝとくしき

女にまのま

まゝとくしき

まゝとくしき

まゝとくしき

まゝとくしき

まゝとくしき

まゝとくしき

まゝとくしき

まゝとくしき

まゝとくしき

まゝとくしき

まゝとくしき

まゝとくしき







りるまふたよきそま  
むしむかむかむか  
まひむかむかむか  
かむかむかむか  
むかむかむかむか  
むかむかむかむか  
むかむかむかむか

むかむかむかむか  
むかむかむかむか  
むかむかむかむか  
むかむかむかむか

むかむかむかむか  
むかむかむかむか  
むかむかむかむか

むかむかむかむか  
むかむかむかむか  
むかむかむかむか  
むかむかむかむか  
むかむかむかむか

むかむかむかむか  
むかむかむかむか  
むかむかむかむか  
むかむかむかむか

申すはしむく へいひのくさ  
あはれからん

あはれなるもの物 たり  
さうさうなるもの男なるは  
たうさうなるものたう  
さうさう

五月はあはれなるもの  
いづれはあはれなるもの  
のあはれなるもの  
くさうさう

あはれなるもの 作はる

あはれなるもの  
くさうさう

あはれなるもの  
くさうさう

あはれなるもの  
くさうさう

あはれなるもの  
くさうさう

あはれなるもの  
くさうさう

あはれなるもの  
くさうさう

くちのうらまはしきもの  
あはれ

よふふふ **女** **舞** **入** **成** **り**

**あ** **ら** **か** **り** **し** **て** **か** **ら** **い** **へ** **り**

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ **女** **舞** **入**

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ **女** **舞** **入** **成** **り**

あはれ

あはれあはれあはれ **女** **舞** **入** **成** **り**

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ **女** **舞** **入** **成** **り**

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれ

あはれあはれあはれ **女** **舞** **入** **成** **り**

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ **女** **舞** **入** **成** **り**

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

カシヤ  
次目とてあ日とてあ日  
カシヤ

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじり

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじりてあ日とてあ日

まじり

わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり

わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり

わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり

わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり

わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり  
わがこゝろは流體所なり

なほ

なほまゝの人 カ 事なまゝ  
よきうき ナ 事なまゝあり

なほまゝのそのな

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほ

なほまゝの ナ 事なまゝ

なほまゝの ナ 事なまゝ

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

夕、弟に祖母也。

△系院のありてゆえに。

鐘は、子累りたる者として

らるるにありて、波をた

らるるにありて。

△女、弟に母なる也。

△父、弟に母なる也。

△母、弟に母なる也。

△妻、弟に母なる也。

△父、弟に母なる也。

△母、弟に母なる也。

△妻、弟に母なる也。

△父、弟に母なる也。

△母、弟に母なる也。

△妻、弟に母なる也。

△父、弟に母なる也。

△母、弟に母なる也。

△妻、弟に母なる也。

△父、弟に母なる也。

△母、弟に母なる也。

△妻、弟に母なる也。

△父、弟に母なる也。



ら<sup>ハ</sup>舟<sup>ノ</sup>上<sup>ニ</sup>し<sup>テ</sup>の<sup>理</sup>あり<sup>七</sup>後  
行<sup>ハ</sup>る<sup>也</sup>白<sup>し</sup>

こ<sup>ノ</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>女<sup>ハ</sup>三<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup>  
と<sup>ク</sup>又<sup>ハ</sup>事<sup>ノ</sup>の<sup>あ</sup>り<sup>也</sup>

ち<sup>ノ</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>女<sup>ハ</sup>三<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup>  
し<sup>ま</sup>ず<sup>し</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>

あ<sup>の</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>女<sup>ハ</sup>三<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup>  
し<sup>ま</sup>ず<sup>し</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>

あ<sup>の</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>女<sup>ハ</sup>三<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup>  
し<sup>ま</sup>ず<sup>し</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>

あ<sup>の</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>女<sup>ハ</sup>三<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup>  
し<sup>ま</sup>ず<sup>し</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>

あ<sup>の</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>女<sup>ハ</sup>三<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup>  
し<sup>ま</sup>ず<sup>し</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>

あ<sup>の</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>女<sup>ハ</sup>三<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup>  
し<sup>ま</sup>ず<sup>し</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>

あ<sup>の</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>女<sup>ハ</sup>三<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup>  
し<sup>ま</sup>ず<sup>し</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>

あ<sup>の</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>女<sup>ハ</sup>三<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup>  
し<sup>ま</sup>ず<sup>し</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>

あ<sup>の</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>女<sup>ハ</sup>三<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup>  
し<sup>ま</sup>ず<sup>し</sup>心<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>し</sup>

あはれなるはなはな  
あはれなるはなはな  
あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

おはよう

いよいよおはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう

おはよう <sup>おはよう</sup>おはよう



らうしん小節のよゝうなる  
とくねと就いそりうに  
とくまの終りふりまはまよ  
折鶴すれと。引かしの由  
戸とよこたはせ。

こむしたよ。お井あるは  
うにふらそりり。女この  
終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ  
ほろ終り。

羽たうとくねと平

おのふらそりり。あまの終り  
あまの終りふりまはまよ。

あまの終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ。

あまの終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ。  
あまの終りふりまはまよ。

ふひつしよもふくるん一也。

世井なるふふとくはしる

を。波はのせしむるもい

しるをのせしむるもい

のふふのせしむるもい

女れたの。女二つなまて。

かふりりあててのふるもい

女ねらふもねりり。

じいんあつ。母言を子

波羅王之太子生。十二

年不言。経曰。自ら

鳥蛤もつらて合をん

おしりどをよもそとて

い。おふもつらて

い。おふもつらて

あ。おふもつらて

あ。おふもつらて

あ。おふもつらて

あ。おふもつらて

あ。おふもつらて

あ。おふもつらて

二年のあまの田行ふと

ゆふのたのみのころ **ひら**

名利負 **夕陽** 子孫

おぼつしうなたるを

ふそけのころ **海** 氏

白く **海** 氏

のたの **あま**

俊より **海** 氏

ひた **海** 氏

ふた **海** 氏

入る **海** 氏

ふた **海** 氏

ふた **海** 氏

ふた **海** 氏

のた

ふた **海** 氏

ふた **海** 氏

ふた **海** 氏

ふた **海** 氏

ふた **海** 氏

ふた **海** 氏

ふた **海** 氏

くも<sup>い</sup>波<sup>な</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>海<sup>うみ</sup>

さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>し

海<sup>うみ</sup>の人<sup>ひと</sup>海<sup>うみ</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>は<sup>は</sup>ま

ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>

む<sup>む</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>お<sup>お</sup>家<sup>や</sup>れ<sup>れ</sup>

あ<sup>あ</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>女<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>柏<sup>かしわ</sup>木<sup>ぎ</sup>の

む<sup>む</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>お<sup>お</sup>家<sup>や</sup>れ<sup>れ</sup>

う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>夕<sup>ゆふ</sup>暮<sup>ぐら</sup>

と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>

又<sup>また</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>

あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>

さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>

お<sup>お</sup>家<sup>や</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>夕<sup>ゆふ</sup>暮<sup>ぐら</sup>

の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>

あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>

け<sup>け</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>夕<sup>ゆふ</sup>暮<sup>ぐら</sup>

あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>

あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>

あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>

あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>

あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>

あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>



たれおんていしんそんいんあまきく  
わいれんてい

うまはいたるかに <sup>カニ</sup> 焼く <sup>ニ</sup> 焼く

ふれまもゆり <sup>ち</sup> ちのちのち

ちれい <sup>コウ</sup> 回務 <sup>コウ</sup> とつり

かにいんた <sup>タ</sup> たりて <sup>タ</sup> 夕 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

さ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

か <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

さ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

じ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

あ <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事 <sup>タ</sup> 事

このあつても かくしけりしや  
| 治すのあつても 治すは  
あつてもいかに かくしけりしや  
かくしけりしや かくしけりしや  
かくしけりしや かくしけりしや

あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや

あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや

あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや

あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや

あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや  
あつてもいかに かくしけりしや

海行の  
海行の

うきうき、  
けりけり、  
たけりけり、  
たけりけり、

あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、

あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、

あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、

あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、

あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、

あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、

あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、  
あつあつ、



とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

とてふもふりしや

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

ふしあはたむくしあはたむく

おはなすは 女にまじりて  
まはる。

おはなすは 女にまじりて  
おはなすは 女にまじりて

女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて  
おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

おはなすは 女にまじりて

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

あはれなるはなはたしき井田

新なる 鏡はら長子 柏先  
中

らまのていせいのまをくからん  
ふしこくしんをくまを 柏木  
かたむしをくまをくからん  
あまを

はらむをくまをくからん  
柏木のゆきをくまをくからん  
たふし 花のむす女にふま  
う

はらむに 花のむす

はらむのくまをくからん 花のむす  
のまをくまをくからん  
あまをくまをくからん  
くまをくまをくからん  
あまをくまをくからん

はらむのくまをくからん 花のむす  
あまをくまをくからん

はらむのくまをくからん 花のむす  
あまをくまをくからん

あまをくまをくからん

はらむのくまをくからん 花のむす

○*あまのなごころ*

やがてはなもさなまのあまの

なごころをかくるはなま

のなごころをかくるはなま

○*あまのなごころ*

あまのなごころをかくる

△*あまのなごころ*

あまのなごころをかくる

*あまのなごころ*

あまのなごころをかくる

*あまのなごころ*

○*あまのなごころ*

あまのなごころをかくる

あまのなごころをかくる

あまのなごころをかくる

○*あまのなごころ*

あまのなごころをかくる

*あまのなごころ*

あまのなごころ

△沙汰巻

平心く書名を

馬と作たるより

此書は世に

此書は世に

此書は世に

此書は世に

此書は世に

此書は世に

此書は世に

此書は世に

河海のよめを記すなり

つらつらつらつらつら 久し振りに

ありんかつらつらつらつら

はらつらつらつら 海を渡る

たのしみつらつらつらつら

新入の堂とてまじりて

ありんかつらつらつらつら

又巻の目有り 撰集し

撰集し 撰集し 撰集し

撰集し 撰集し 撰集し

撰集し 撰集し 撰集し

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

知<sup>チ</sup>解<sup>ゲ</sup>し<sup>シ</sup>る

杉<sup>シ</sup>木<sup>キ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ら<sup>ラ</sup>し<sup>シ</sup>る **杉**上<sup>シ</sup>に<sup>ニ</sup>は<sup>ハ</sup>る

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup> **杉**上<sup>シ</sup>に<sup>ニ</sup>は<sup>ハ</sup>る

巻<sup>マ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ら<sup>ラ</sup>し<sup>シ</sup>る **杉**上<sup>シ</sup>に<sup>ニ</sup>は<sup>ハ</sup>る

**杉**上<sup>シ</sup>に<sup>ニ</sup>は<sup>ハ</sup>る

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

後<sup>キ</sup>主<sup>シュ</sup>の<sup>ノ</sup>席<sup>セキ</sup> **杉**上<sup>シ</sup>に<sup>ニ</sup>は<sup>ハ</sup>る

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup> **杉**上<sup>シ</sup>に<sup>ニ</sup>は<sup>ハ</sup>る

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>





あつたふしをいふはまじき  
と申すは申すまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき

若人散乱心乃至  
一花供養畫像漸  
見无数仏  
はよむはらりやれり  
はせし人らう

娘を女一室とす  
あつたふしをいふはまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき  
まじきいふまじき

何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

△<sup>△</sup> 何となくと

かきたり

まぼろしあきらむ<sup>り</sup>まぼろしあきらむ<sup>り</sup>  
しりあきらむ

ほろく<sup>き</sup>えとあきらむ<sup>り</sup>

いせいと<sup>は</sup>あきらむ<sup>り</sup>

ほろく<sup>き</sup>えとあきらむ<sup>り</sup> 久松とあきらむ<sup>り</sup>

まぼろし

まぼろしあきらむ<sup>り</sup> 久松とあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup>

まぼろし

まぼろしあきらむ<sup>り</sup> 久松とあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup> 久松とあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup> 久松とあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup> 久松とあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup> 久松とあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup>

まぼろしあきらむ<sup>り</sup>

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

いふはなほしむるはまは

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

あつたしんぞくしんぞく

おん

いん

うん

えん

幻巻

あ

い

う

え

お

か

き

く

け

こ

おのれをさぐる<sup>。</sup> **かたがは** <sup>あまた</sup> **あまた**

まじ

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

あまた

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

<sup>あまた</sup> **あまた** <sup>あまた</sup> **あまた**

あまた



うらやまのうらやまのうらやま

河海ありままありのりありあり

冷要くられていり文選

鳥籠ねとまてうらやま

清のり鳥籠くまてうらやま

かこのころのりくまてうらやま

ほのり場くまてうらやま

生だんねくまてうらやま

たのり場くまてうらやま

かこのころのりくまてうらやま

よこのころのりくまてうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

いふに丸に極に 白くまじりて  
いふに丸に極に 白くまじりて  
白くまじりて 丸に極に  
院うと申すに 丸に極に  
まじりて 丸に極に  
丸に極に 白くまじりて

いふに丸に極に 白くまじりて  
丸に極に 白くまじりて  
丸に極に 白くまじりて  
丸に極に 白くまじりて  
丸に極に 白くまじりて

丸に極に 白くまじりて

丸に極に 白くまじりて  
丸に極に 白くまじりて  
丸に極に 白くまじりて  
丸に極に 白くまじりて

丸に極に 白くまじりて

丸に極に 白くまじりて

丸に極に 白くまじりて  
丸に極に 白くまじりて  
丸に極に 白くまじりて

しあはれい前ふ家院入後  
行へしらのあし

わくわくはつるめさねらと  
對のおふ家院むえあて

あふしつゝいりあて  
うむしつゝいりあて

あふしつゝいりあて  
うむしつゝいりあて

あふしつゝいりあて  
うむしつゝいりあて

女にふまに我がひびきうしとの  
はつと海女にむかひあて  
あふしつゝいりあて

あふしつゝいりあて  
うむしつゝいりあて

あふしつゝいりあて  
うむしつゝいりあて

あふしつゝいりあて  
うむしつゝいりあて

あふしつゝいりあて  
うむしつゝいりあて

ふりかへしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ

あはれしむにあらむとていふ



行  
行  
行

行  
行  
行

夏秋

行  
行

行  
行

行

行

行

行

行

行

行

行

行

行

行

ついでたふらぬはたむ  
りついでに何をさしやう  
くしついでにぬえ水のきつ  
あついでに家を掃きぬ  
らついでにころ清輔流  
ついでにぬえ水の社以し社  
瓶とたつたまのいん  
家の社社社のついでにぬ  
湯流しぬえ水ぬえ水の  
もついでにぬえ水の社  
らついでにぬえ水の

ついでにぬえ水の社

ついでにぬえ水の社

ついでにぬえ水の社

ついでにぬえ水の社

ついでにぬえ水の社

ついでにぬえ水の社

ついでにぬえ水の社

ついでにぬえ水の社

ついでにぬえ水の社

ついでにぬえ水の社

ついでにぬえ水の社

おはようございませう  
おはようございませう  
おはようございませう

おはようございませう  
おはようございませう

おはようございませう  
おはようございませう

おはようございませう  
おはようございませう

おはようございませう  
おはようございませう

おはようございませう  
おはようございませう

おはようございませう  
おはようございませう

おはようございませう  
おはようございませう

おはようございませう  
おはようございませう

おはようございませう  
おはようございませう

おはようございませう  
おはようございませう

おはようございませう  
おはようございませう



白くくしるるるるる  
うまき おれおれ ちかちか  
何 こゝろ へて こゝろ へて  
し こゝろ へて こゝろ へて  
我 こゝろ へて こゝろ へて  
ら こゝろ へて こゝろ へて

子規 こゝろ へて こゝろ へて

し こゝろ へて こゝろ へて

う こゝろ へて こゝろ へて

一 こゝろ へて こゝろ へて

乞 こゝろ へて こゝろ へて

物 こゝろ へて こゝろ へて

庭 こゝろ へて こゝろ へて

は こゝろ へて こゝろ へて

し こゝろ へて こゝろ へて

夕 こゝろ へて こゝろ へて

星 こゝろ へて こゝろ へて

不 こゝろ へて こゝろ へて

し こゝろ へて こゝろ へて

蕙 こゝろ へて こゝろ へて

七月 こゝろ へて こゝろ へて

織 こゝろ へて こゝろ へて

女 こゝろ へて こゝろ へて

莫言<sup>ナクモト</sup>と上<sup>ニ</sup>栞<sup>シ</sup>ねん<sup>ニ</sup>  
年<sup>トシ</sup>は<sup>ニ</sup>過<sup>ス</sup>る<sup>ニ</sup>の<sup>シ</sup>生<sup>キ</sup>一<sup>ニ</sup>夜<sup>ニ</sup>  
猶<sup>ナラ</sup>勝<sup>ル</sup>人<sup>ニ</sup>間<sup>ニ</sup>も<sup>ナ</sup>不<sup>レ</sup>回<sup>ル</sup>  
ふ<sup>ニ</sup>あ<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>何<sup>レ</sup>も<sup>ナ</sup>せ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup>の<sup>チ</sup>方<sup>ニ</sup>  
せ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ら<sup>ま</sup>し<sup>と</sup>

凡<sup>ソ</sup>く<sup>モ</sup>人<sup>ニ</sup>だ<sup>ら</sup>む<sup>ニ</sup>と

私<sup>ニ</sup>は<sup>カ</sup>々<sup>と</sup>言<sup>は</sup>せ<sup>た</sup>ら<sup>む</sup>

萩<sup>ノ</sup>凡<sup>ソ</sup>く<sup>モ</sup>花<sup>ノ</sup>た<sup>ら</sup>む<sup>ニ</sup>

巳<sup>ノ</sup>日<sup>ニ</sup>同<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>と

君<sup>ノ</sup>心<sup>ハ</sup>海<sup>ノ</sup>に<sup>も</sup>ぐ<sup>も</sup>と<sup>ら</sup>む<sup>ニ</sup>

せ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>た<sup>ら</sup>ま<sup>し</sup>と

人<sup>ノ</sup>心<sup>ハ</sup>我<sup>ノ</sup>心<sup>ト</sup>も<sup>同</sup>じ<sup>と</sup>す<sup>と</sup>方<sup>ニ</sup>

せ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ら<sup>ま</sup>し<sup>と</sup>

わ<sup>ら</sup>い<sup>は</sup>ぬ<sup>ひ</sup>ら<sup>か</sup>九<sup>日</sup>一<sup>前</sup>に

縁<sup>ノ</sup>と<sup>も</sup>あ<sup>り</sup>し<sup>ら</sup>む<sup>と</sup>す<sup>と</sup>

お<sup>の</sup>ち<sup>は</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>と</sup>す<sup>と</sup>す<sup>と</sup>

か<sup>ら</sup>縁<sup>ノ</sup>と<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>と</sup>す<sup>と</sup>

ま<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>と<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>と</sup>す<sup>と</sup>

せ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ら<sup>ま</sup>し<sup>と</sup>

心<sup>ノ</sup>を<sup>も</sup>た<sup>ら</sup>む<sup>と</sup>す<sup>と</sup>

心<sup>ノ</sup>を<sup>も</sup>た<sup>ら</sup>む<sup>と</sup>す<sup>と</sup>

心<sup>ノ</sup>を<sup>も</sup>た<sup>ら</sup>む<sup>と</sup>す<sup>と</sup>

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ





得た初巻のついでに  
いふまでもなく  
おぼろの御氏御  
あつたはる  
まのついでに  
まのついでに  
まのついでに  
まのついでに  
まのついでに  
まのついでに

幻巻の御氏御  
二月十一日  
九十九日

紫は巻の初

御氏御

御氏御

御氏御

御氏御

御氏御

御氏御

御氏御

御氏御

御氏御

御氏御

浄法門也

一部五十四卷 法苑珠林 卷之三

法苑珠林 卷之三

法苑珠林 卷之三

法苑珠林也

法苑珠林 卷之三

法苑珠林 卷之三

法苑珠林 卷之三

法苑珠林也

法苑珠林也

法苑珠林也

法苑珠林 卷之三

法苑珠林 卷之三

法苑珠林也

法苑珠林 卷之三

法苑珠林 卷之三

法苑珠林 卷之三

法苑珠林 卷之三

法苑珠林也

法苑珠林 卷之三

法苑珠林 卷之三

中書に二文あり  
い

山よりくるといふ  
東の院 治氏  
未はしりて行

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり

中書に二文あり



ただうゑのく、院にひかり  
そとにけし、清水のつら  
ぬ。

たしらのうゑと、世に後  
のらうたつて。

うゑも、冷泉院にまて  
まて、松のうゑと。

たしらのうゑと、あつて  
何と、うゑと、うゑと、うゑと。

あつて、うゑと、うゑと、うゑと  
松のうゑと、うゑと。

こら、うゑと、松のうゑと、  
冷泉院に、うゑと、うゑと、  
うゑと。

うゑと、うゑと、うゑと、  
うゑと、うゑと、うゑと、  
うゑと。

うゑと、うゑと、うゑと、  
うゑと、うゑと、うゑと、  
うゑと。

うゑと、うゑと、うゑと、  
うゑと、うゑと、うゑと、  
うゑと。

砂とさくさくおろし  
んとしてたたくておろす

あひらきまじりておろす

只んあひらきまじりておろす

くまみしきいりておろす

我力こころいりておろす

あひらきまじりておろす

ふらふらおろす

そりおろす

おろす

あひらきまじりておろす

おろす

おろす

おろす

おろす

おろす

おろす

おろす

おろす

おろす

おろす

西海<sup>オホウミ</sup>きてあふ<sup>アハ</sup>！ 海<sup>ウミ</sup>深<sup>フカ</sup>  
六年<sup>ロクネン</sup> 迺<sup>ノ</sup>生<sup>ナ</sup>野<sup>ノ</sup>子<sup>コ</sup>と曰<sup>イハレ</sup>文<sup>ヲ</sup>  
くそ<sup>クソ</sup>う<sup>ウ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>や<sup>ヤ</sup>！

何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>報<sup>ホウ</sup>に<sup>ニ</sup>こ<sup>コ</sup>う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>う<sup>ウ</sup>方<sup>ハ</sup>  
あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ま<sup>マ</sup>う<sup>ウ</sup>！

我<sup>ガ</sup>方<sup>ハ</sup>ま<sup>マ</sup>じ<sup>ジ</sup>に<sup>ニ</sup>何<sup>ナニ</sup>好<sup>コト</sup> だ<sup>ダ</sup>ら<sup>ラ</sup>も  
病<sup>ヤマト</sup>れ<sup>レ</sup>何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>ゝ<sup>コ</sup> 恙<sup>ツガ</sup>ハ<sup>ハ</sup>出<sup>デ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>を<sup>ヲ</sup>  
ん<sup>ン</sup>隠<sup>カ</sup>と<sup>ト</sup>食<sup>ク</sup>せん<sup>ン</sup>云<sup>ハク</sup>。

う<sup>ウ</sup>か<sup>カ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>よ<sup>ヨ</sup>う<sup>ウ</sup>や<sup>ヤ</sup> 報<sup>ホウ</sup>に<sup>ニ</sup>  
ま<sup>マ</sup>じ<sup>ジ</sup>に<sup>ニ</sup>何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>ゝ<sup>コ</sup>！

い<sup>イ</sup>は<sup>ハ</sup>れ<sup>レ</sup>よ<sup>ヨ</sup>う<sup>ウ</sup>！ 二<sup>ニ</sup>者<sup>ノ</sup>不<sup>フ</sup>得<sup>ト</sup>

作<sup>サシ</sup>梵<sup>ボツ</sup>王<sup>オウ</sup>二<sup>ニ</sup>者<sup>ノ</sup>帝<sup>テイ</sup>釈<sup>シヤク</sup>三<sup>サン</sup>  
者<sup>ノ</sup>魔<sup>マ</sup>王<sup>オウ</sup>四<sup>シ</sup>者<sup>ノ</sup>轉<sup>テン</sup>輪<sup>リン</sup>聖<sup>セイ</sup>  
王<sup>オウ</sup>五<sup>ゴ</sup>者<sup>ノ</sup>仏<sup>ブツ</sup>身<sup>シン</sup> 提<sup>テイ</sup>以<sup>イ</sup>呂<sup>ロ</sup>  
何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>ゝ<sup>コ</sup>う<sup>ウ</sup>！ 何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>ゝ<sup>コ</sup>う<sup>ウ</sup>！  
何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>ゝ<sup>コ</sup>う<sup>ウ</sup>！

い<sup>イ</sup>は<sup>ハ</sup>れ<sup>レ</sup>よ<sup>ヨ</sup>う<sup>ウ</sup>！

道<sup>ミチ</sup>兼<sup>ケン</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>ゝ<sup>コ</sup>う<sup>ウ</sup>！ 何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>ゝ<sup>コ</sup>う<sup>ウ</sup>！  
何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>ゝ<sup>コ</sup>う<sup>ウ</sup>！

い<sup>イ</sup>は<sup>ハ</sup>れ<sup>レ</sup>よ<sup>ヨ</sup>う<sup>ウ</sup>！

何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>ゝ<sup>コ</sup>う<sup>ウ</sup>！

女<sup>メ</sup>を<sup>ヲ</sup>ま<sup>マ</sup>じ<sup>ジ</sup>に<sup>ニ</sup>何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>ゝ<sup>コ</sup>う<sup>ウ</sup>！

とくよしとまれし 海女しゆん  
たしん

名だたし 夕に暮まて

じうしえんと 幻巻海女

の法に著し 五葉のりし十

の巻と

そのとけ 魚と長魚と

うらふとせし 左<sup>サ</sup>とてたう

うらふとせし 魚と長魚と

たしゆ 魚と長魚と

うらふとせし 魚と長魚と

うらふとせし 魚と長魚と

うらふとせし 魚と長魚と

うらふとせし

うらふとせし 魚と長魚と

うらふとせし 魚と長魚と

うらふとせし

うらふとせし 魚と長魚と

うらふとせし 魚と長魚と

うらふとせし 魚と長魚と

うらふとせし

うらふとせし 魚と長魚と

○ 古物をまじへて初て三冊  
しつりゆきかきしるはしと  
つて行なひてさうふゆとなり  
海軍のいさゝし 蒸れまゝ  
とありのゆゑ

○ 冷泉院に一言 致仕後乃  
江波友の版にまて

○ 十九とあるは 蒸十とあり十  
九葉とせしまは巻一有り  
次に巻二ふらゆりてはれは  
のまあり

○ むしり院に 蒸り冷泉院に  
ゆきまふひゆ也

○ みくらに 蒸れいしとあり  
物りゆき 四冊あり也

○ けりやくし 蒸れまゝとた  
ふらりありゆきとありぬれ  
ぬれ也

○ けりやくし 蒸れまゝとた  
ゆりありまゝ 蒸れまゝは  
けりやくしとあり蒸れは  
あり也

ふまじやうゆまん 女にふま  
まじき葉のらゆと

らふじやうゆまん 女にふま  
のたりにやうゆまん

ゆんふまじやうゆまん 女にふま  
いふまじやう

ふまじやうゆまん 女にふま  
ふまじやうゆまん

ふまじやうゆまん 女にふま  
ふまじやうゆまん

ふまじやうゆまん

ふまじやうゆまん 女にふま

ふまじやうゆまん

ふまじやうゆまん 女にふま

ふまじやうゆまん 女にふま

ふまじやうゆまん 女にふま

ふまじやうゆまん 女にふま

ふまじやうゆまん 女にふま

ふまじやうゆまん 女にふま

ふまじやうゆまん 女にふま

ふまじやうゆまん 女にふま



△和歌巻

初として巻名とて黄中河  
言はゆ有り作は巻意二十三  
と七秋は除目と中細言は  
すりゆりゆきいふ言は  
意は巻は二の言のゆり  
ゆりゆりゆり十回巻は  
十九は秋はゆりゆり巻は  
は二巻の言は言はゆり  
ゆりゆりゆりゆり巻は十回  
ゆりゆりは二巻中細言は



とほまてしまふまのりけ巻  
竹川巻の末よぬ梅もほい  
名も長よゆくとる合の世  
よりのほまきくう物也物也  
け巻よとらぬまぬよのこる  
不審也あけ川巻よゆくと  
よまめさしれた物きと

い巻よ末し名もほいよはる  
夕年たれよわら

いもくまき 向くもわら  
亮とよちらんくわら

あつこもろり 物とけりまら  
はら舞まてあつ

のらあはらわらく 舞まてあつ  
あつあはらわらわらく 向くもわら

不十用く  
あつあはらわらわらく 舞まてあつ  
あつあはらわらわらく

あつあはらわらわらく 舞まてあつ  
あつあはらわらわらく 向くもわら

あつあはらわらわらく 舞まてあつ  
あつあはらわらわらく 向くもわら

あつあはらわらわらく 舞まてあつ  
あつあはらわらわらく 向くもわら

ついでに

とていつか 持たれ版に物

おとて男もよりゆかり

あつたにいつか 女も一所

おとす持たれ男もよりゆかり

し女も一人ありおとす

おとす持たれ男もよりゆかり

おとすにいつか 版に男も一人

おとす持たれ

おとす持たれ男も一人 版に

おとす持たれ男も一人

おとす持たれ男も一人

おとす持たれ

おとす持たれ男も一人 版に

おとす持たれ男も一人

おとす持たれ

おとす持たれ男も一人 版に

おとす持たれ

おとす持たれ男も一人 版に

おとす持たれ男も一人

おとす持たれ男も一人

おとす持たれ男も一人

右社と云見の社君は  
約有りし事見の社より有  
の成句よま申候と雖  
為せ給ぬる事申一  
あり海島より舟行し居  
ぬ候と

改題し女流の「か」

改題し居り候と女流  
と相ぬし事見候と  
し候と  
海島より舟行し居

向申し候と見候と  
候と

右社と云見の社君は  
約有りし事見の社より有  
の成句よま申候と雖  
為せ給ぬる事申一  
あり海島より舟行し居  
ぬ候と

改題し女流の「か」  
改題し居り候と女流  
と相ぬし事見候と  
し候と

海島より舟行し居  
ぬ候と

くもつとせしし母をまう

母と母と母と母と母と母と

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

母と母と母と母と母と母と

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

母と母と母と母と母と母と

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれなる

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

あはれなるをいふは

揚々揚々阿のなること

阿の今をいふなり

丸論曰 釈迦仏涅槃

入後阿難高座登諸

經結集之其形如佛

仍衆會仏再出給疑

聖阿難曰

らありて月をみたり

凡に自らみたり

とて・おまの・えそら

はてらとあらん

中に入 衆人皆中に入り

に居りて

おの向て 衆人皆その

まのまの 二多候

ついでに 自ら

わたり

おのまの 衆人皆

衆人皆 婦人

一阿の今をいふなり

阿の今をいふなり

阿の今をいふなり

いづれにこそ **あはれ**の **あはれ**に  
あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

**あはれ**にこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれに

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に

あはれにこそ **あはれ**に





沙由の舟の如くくく  
くく梅の枝くくくく  
くくくくくくくくく  
くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

知しんくで終つたまで  
家いしあふへ 洋ツミヤんヤキチしゆて  
白シロ文モノのあつたるを  
思ひし時しんくあつたま  
は *Shinnyu* といふに  
白シロ文モノのあつた。

白シロ文モノのあつた  
いふに *Shinnyu* といふに  
思ひし時しんくあつたま  
は *Shinnyu* といふに  
白シロ文モノのあつた。

ついでとていふに *Shinnyu* といふに  
思ひし時しんくあつたま  
は *Shinnyu* といふに  
白シロ文モノのあつた。

白シロ文モノのあつた  
いふに *Shinnyu* といふに  
思ひし時しんくあつたま  
は *Shinnyu* といふに  
白シロ文モノのあつた。

竹の巻

△竹の巻

秋の月とて巻名は竹の巻  
に意をとりて竹の巻十回あり  
りといふ意は十四の巻の二  
月と竹の巻は竹の巻あり  
巻よみたるは竹の巻あり  
甲納の巻ありとて  
口の巻中納言の巻あり  
竹の巻は竹の巻あり  
竹の巻は竹の巻あり  
竹の巻は竹の巻あり  
竹の巻は竹の巻あり

始末わかれしはすまて  
のまありきくそり句は  
まきうし横雲とゆふゆ  
まよはしてより入道並と  
と云句し横雲と云ふ  
並りゆ又並り行川  
わかれまきし海ありゆ  
まあり

まは治氏しそりまありゆ  
い敷瑞乃乃は出武部  
治とせはるしそりまありゆ

はのまは治氏しそりまあり  
まのまは治氏しそりまあり  
まのまは治氏しそりまあり  
まのまは治氏しそりまあり

むらまはるしそりまあり

九一部まは治氏しそりまあり  
まのまは治氏しそりまあり  
まのまは治氏しそりまあり  
まのまは治氏しそりまあり  
まのまは治氏しそりまあり  
まのまは治氏しそりまあり  
まのまは治氏しそりまあり

昔より七女はよの姫  
玉鬘りと名けてはよの姫  
昔は好まざりし  
好むはよの姫  
如く好むはよの姫  
よの姫はよの姫  
冷泉院の美しき  
よの姫はよの姫  
よの姫はよの姫  
然るに老たるよの姫  
よの姫はよの姫

よの姫はよの姫  
よの姫はよの姫  
或はよの姫はよの姫  
たりしよの姫はよの姫  
よの姫はよの姫  
よの姫はよの姫  
よの姫はよの姫  
よの姫はよの姫  
よの姫はよの姫  
よの姫はよの姫





六細言 御所へ長たふらう  
しよふらふらふらふらふら  
中細言 御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう

御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう

御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう

御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう

御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう

御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう  
御所へ長たふらう



夕はきく 薫玉ろく  
はるりゆて 雨言取物  
まのなはらたはら  
ゆて

喉舌し せいのを薫よ  
らじしんを

ひじりあり 金神を  
のぼる

まねる 気取らぬ  
くしあつて

はらりてふらふらう

かちのまにひきかす

みこのわらうらう

わらうらうらう

しそとらららら

あはれららら

あはれららら

あはれららら

あはれららら

あはれららら

あはれららら

あはれららら

おぼつかしに、神をたへし  
そのあそびも

にほひのあそびあり 女を帯し  
まよふ勢ふしつひるけきよに

薫しませ

むじのいふあり 海氏しませ

りくろろろろ 威キテのチカ儀のん

くろろろ

おのほ 玉勢しよのあそび

薫しおろしたる也

むりちくろろ 薫し同也

いさあろろいせ入 薫し同あり

お入りのあそび

梅ウメつえと 俣馬ウマあそび

ねつねしよあそびのいせ

まよふあそびのいせ

あそび

ほろろいせあそび 内ウチ女メあそび

あそびあそびく 梅ウメつねしよ

何ナニもあそび

女メあそび 女メあそび

おぼつかしに 梅ウメつねしよ



うきうきりりたるもよほのうきうきりり  
のうきうきりりたるもよほのうきうきりり  
のうきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり  
のうきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

こがしやちをわしにトエケルハホシレシワカラス  
うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

うきうきりりたるもよほのうきうきりり

くらたからんて。

△人かたしむらんとて。

△若くはあつてよりあつたり。

△おのりもあつてあつたり。

△女房のやうなりよりあつたり。

△よきあつてもあつたりあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△物とあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

△あつてもあつてもあつたり。

素心よもむらさき  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも

あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも

あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも

あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも

あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも

あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも

あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも

あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも  
あはれもあはれも

はよりあつたあつたあつた  
とあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

まじりまじり

つらねりし人よとて

文を習ふ女は女に

終つてはとて

中なるまじりて

り見せし

終つてはとて

のゆゑに

ゆゑに

り

終つてはとて

終つてはとて

終つてはとて

終つてはとて

終つてはとて

り

終つてはとて

終つてはとて

終つてはとて

り

終つてはとて

終つてはとて



△ 櫻の匂は風にたはひてゆく。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

△ 春の風は。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

△ 春の風は。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

△ 春の風は。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

△ 春の風は。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

△ 春の風は。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

△ 春の風は。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

△ 春の風は。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

△ 春の風は。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

△ 春の風は。

△ 春の風は花の香りを運ぶ。

院れ女ごうり玉盤方して

うぬいあし冷み取院れ女

しきくかにあがりさうとて

うぬいあしや井底あたま

うぬいあしや井底あたま

のふれたる玉ろくたまりて

むりあしあし玉盤方と

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

のあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

まはるかにうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うら

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく

うらやましくうらやましく



あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は

あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は

あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は

あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は  
あはれなる心は

九月廿五日 御給 玉鬘の婦女  
院の女侍の御給也

右の旨 父に申す

此の旨 申井有也

この旨 御人の御給也

あつて 申井有也

この旨 御人の御給也

おつて 御人の御給也

この旨 御人の御給也

源氏の父に申す也

右の旨 御人の御給也

右の旨 御人の御給也

右の旨 御人の御給也

右の旨 御人の御給也

右の旨 御人の御給也

中將の旨 御人の御給也

右の旨 御人の御給也

右の旨 御人の御給也

右の旨 御人の御給也

右の旨 御人の御給也

右の旨

おしあゆ 暇をたたく事  
や井ある二人の親しき事か  
おしあゆとせんこと

△ 毫もほひひのひり世はう

かういひをうしきうてなれ  
しものちおひりたううと  
しうねとく命りううと  
あふとて世はうの世は  
思ふこと

ゆきかき 哀れきしと  
たうあうしきうこと

△ 哀れきたうあうしき

甲のつひの世はうの世は  
暇をたたくこと

△ おしあゆしきうせんこと

ううと

△ ひかり世はうの世は

しきうとせんこと  
死とせんこと

△ けうのまうしきうせんこと

史記曰 季札之初使

北邊 徐君 徐君 如季

好

札之劍口弗敢言季  
札之心知之為使上  
國未厭之還至徐君  
已死於是乃解之  
寶劍繫之徐君冢  
樹而去不斂之居之  
のりまよりのひのり  
えのひのりひのり  
句とらるる

うさうさうさうさうさ  
人のあはれのあはれ

かきこ

うさうさうさうさうさ

あはれあはれのあはれ

うさうさうさうさ

あはれあはれのあはれ

うさうさうさうさうさ

あはれあはれのあはれ

うさうさうさうさうさ

あはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ



○ふたつとていふは、  
○ふたつとていふは、  
○ふたつとていふは、  
○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

○ふたつとていふは、

しにほまじと決て

おぼろけのこころに

よきあひのまへに

うしろのこころに

し

おぼろけのこころに

よきあひのまへに

うしろのこころに

し

おぼろけのこころに

し

七月ツキおぼろけのこころに

おぼろけのこころに

し

おぼろけのこころに

し

し

おぼろけのこころに

し

おぼろけのこころに

し

おぼろけのこころに

とらふて

わさむいふふん〜

踏<sup>フミ</sup>千<sup>チ</sup>可<sup>カ</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>の<sup>ノ</sup>緒<sup>イト</sup>也

竹<sup>タケ</sup>の<sup>ノ</sup>う<sup>ウ</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>て<sup>テ</sup> 日<sup>ヒ</sup>裏<sup>ウラ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ら<sup>ラ</sup>ん

ゆ<sup>ユ</sup>の<sup>ノ</sup>緒<sup>イト</sup>と<sup>ト</sup>な<sup>ナ</sup>る<sup>ル</sup>ふ<sup>フ</sup>れ<sup>レ</sup>の<sup>ノ</sup>り

出<sup>デ</sup>内<sup>ウチ</sup>の<sup>ノ</sup>か<sup>カ</sup>な<sup>ナ</sup>と<sup>ト</sup>海<sup>ウミ</sup>の<sup>ノ</sup>波<sup>ナミ</sup>

よ<sup>ヨ</sup>よ<sup>ヨ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>て<sup>テ</sup> 階<sup>カイ</sup>の<sup>ノ</sup>う<sup>ウ</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

う<sup>ウ</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>て<sup>テ</sup> 人<sup>ヒト</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

知<sup>チ</sup>る<sup>ル</sup>人<sup>ヒト</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

名<sup>ナ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>て<sup>テ</sup> 心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

次<sup>ツギ</sup>に<sup>ニ</sup> 袋<sup>フクロ</sup>の<sup>ノ</sup>口<sup>クチ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

か<sup>カ</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

こ<sup>コ</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

花<sup>ハナ</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

葉<sup>エ</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

こ<sup>コ</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

解<sup>トク</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

解<sup>トク</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

う<sup>ウ</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>て<sup>テ</sup> 心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

我<sup>ワ</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

わ<sup>ワ</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ

夜一長くは有りて 物事  
よむかきり有りて

方外にききたる 秋乃のま  
こころん せんと ことなきの  
方外とほりて

美言 秋言れん こと踏  
秋外にききたる

一長の月影ハ 美言あり  
秋外なるの月見えしころに  
美言 美言と 秋外に  
秋外にききたる

男のこころは 秋外に  
秋外にききたる

秋外にききたる 美言  
と女房より 秋外に

とえと 美言のまこと  
秋外にききたる  
秋外にききたる

秋外にききたる 美言  
秋外にききたる  
秋外にききたる

秋外にききたる 美言

たれありし未だまじりて  
あつてきくす 薫入を色ニリカし  
らる也

いかによと 冷泉院し  
牛ふら河たに 院し河也  
初子巻よそ踏平乃ぬ家  
一々染きくお色一そ染  
思ひこふから色一色ん  
似と河の河さきりりりて  
け約よそと家よひりし  
ゆくと河さきり

名乃たし 夕事也  
ととりのお女入 出とつり也  
筆の沙体糸 舞思娘也  
ひしハ 薫ゆは也  
和琴 冷泉院しりき今也  
うさあ物 弁のけき物次  
ゆいキヨウ楽ヤク曲キョク也  
いりまのりかきし

地也

卯月よ 十月より 嬉クニミ也  
五十日イハのチまりのハ

新所よりあつては  
あつて

らういふから 女法  
まのこつとく  
ちい女あつて  
あつて

ら中あつて 女法  
うめいふらう 女法  
あつて

あつてあつて  
あつてあつて

あつてあつて  
あつてあつて

あつてあつて  
あつてあつて

あつてあつて  
あつてあつて

あつてあつて  
あつてあつて

このまゝ中夜までおぼろ  
ぬるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるる

おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ

おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ

おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ

おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ

おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ  
おぼろおぼろおぼろ

いふはれやなまよふに  
いふはれやなまよふに

あつめ ぶらうとまき

宮中おとそ 句家巻

十九葉うくまねとん

日向まきのあゆ

ちんぼねく 美とん

うらわしちんぼねく

あつめまきうらわし

と

わいふらり ぶらうとまき

まよふ

うらわしちんぼねく

あつめまきうらわし

うらわしちんぼねく

あつめまきうらわし

うらわしちんぼねく

あつめまきうらわし

ちんぼねく 美とん

あつめまきうらわし

うらわしちんぼねく

あつめまきうらわし



かよそひのむらさきうららめしき  
もつらふとそそふけ何そと  
つらふまじと娘あしはらふま  
らふらふ

いふにさくさくしてはるかに

地しつらひのふらふらふらふら

はらふらふらふらふらふらふら

うららめしきうららめしきうらら

はらふらふらふらふらふらふら

あはれうららめしきうららめしき

あはれうららめしきうららめしき

あはれ

はらふらふらふらふらふらふら

あはれうららめしきうららめしき

あはれうららめしきうららめしき

あはれうららめしきうららめしき

あはれうららめしきうららめしき

あはれうららめしきうららめしき

あはれうららめしきうららめしき

あはれうららめしきうららめしき

あはれうららめしきうららめしき

あはれうららめしきうららめしき

わが心はしづかにしむ

善道タカミチのそとにありて

昇進ノボリの心はしづかにしむ

よりの心はしづかにしむ

何れも心のしづかにしむ

行ふ心はしづかにしむ

おのれはしづかにしむ

くはしづかにしむ

終る心はしづかにしむ

あはれしづかにしむ

たふしづかにしむ

初に玉葉のそとにありて

たらしむて

あはれしづかにしむ

まはしづかにしむ

院まはしづかにしむ

あはれしづかにしむ

あはれしづかにしむ

あはれしづかにしむ

あはれしづかにしむ

あはれしづかにしむ

らふをみまはす。其の御  
まはしませう。うらた。

お后殿にお梅を召置と。

お殿、まうらへんと。

お答へ、お后家よむいなり

おとせむ。地へ下し、まはす

し清くと。

お方さま、おまこと、又、事入

賜らるうらたらしむ。お好

ま。

おまはし、お梅さま、お梅

め、お梅さま、お梅

お梅さま、お梅さま、お梅

お梅さま、お梅さま、お梅

お梅さま、お梅さま、お梅

お梅さま、お梅さま、お梅

お梅の家のま。

お殿、お梅さま、お梅

お梅さま、お梅さま、お梅

お梅さま、お梅さま、お梅

お梅さま、お梅さま、お梅

お梅さま、お梅さま、お梅

とてまゐり

廿七日 祝 喜ねたまし

見らぬと云ふをいふ

の事なまじくいふ

事なまじくいふ

と申すはたゞいふ

いふ事なまじく

お殿より申す事

お殿より申す事

お殿より申す事

とて

お殿より申す事

お殿より申す事

お殿より申す事

とて

お殿より申す事

とて

お殿より申す事

お殿より申す事

お殿より申す事

お殿より申す事

お殿より申す事

بسم الله الرحمن الرحيم  
الحمد لله رب العالمين  
والصلاة والسلام على  
سيدنا محمد وآله الطيبين  
الطاهرين



